

平成27年10月11日

多職種協働による在宅チーム医療のための
地域リーダー研修会

実践 多職種カンファレンス 事例

服薬指導 訪問薬剤指導

その後の経過

みらい平クリニック院長 小松崎八寿子
あおやま薬局 入村直也

実際の対応

- 古い薬を使えるもの駄目なものに分けて、駄目なものを了解を頂き廃棄しました。
- 使えるものを、再利用して、残薬調節しました。
- お薬カレンダーでは駄目だったので、お薬の分別ケースをつくり居間に置きました。
- その後も毎回残薬確認して、医師にフィードバックして処方量調節して頂きました。
- 病識、何の為に飲むのか理解がないので、それを毎回説明しました。
- ふらつき傾眠強くみられたので、医師ともよく相談しユーロジン減量することにしました。

その後、まとめ

- 風邪からか、誤嚥でなったか？だが肺炎引き起こし入院。肺炎は改善したが、痩せてしまい歩行も困難になり、自宅に戻すことはできないとの判断。そのまま入院中に誤嚥性肺炎起こし、94歳で亡くなりました。
- 医師が往診に行くようになった際に、在宅での訪問薬剤管理をその時点で行えた方が良かった。
- 在宅での療養されている方を知った場合、介入している多職種の方々に情報を得て、訪問薬剤管理指導の必要性を考えることも大切。